

琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成 28 年度(2016 年度)第 4 四半期)

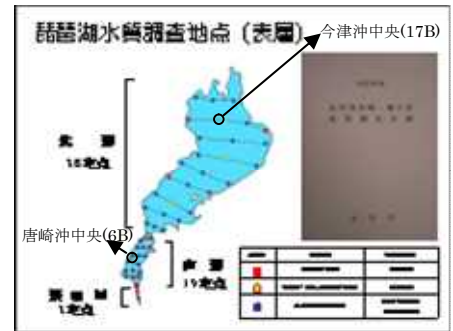
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成 28 年度第 4 四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖 28 地点、南湖 19 地点および瀬田川 2 地点の計 49 地点において、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

◎調査方法について

琵琶湖・瀬田川の上記 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5 m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央 (通称「17B」)、他 1 地点、南湖では唐崎沖中央 (通称「6B」)において、月 2 回実施しています。



◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 28 年度第 4 四半期の水質概況は次のとおりです。

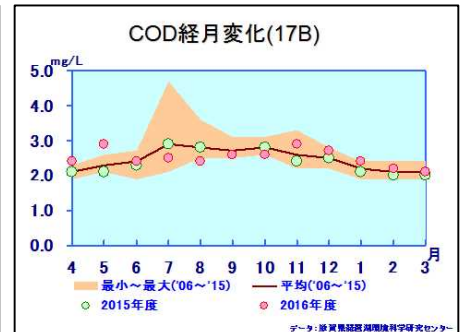
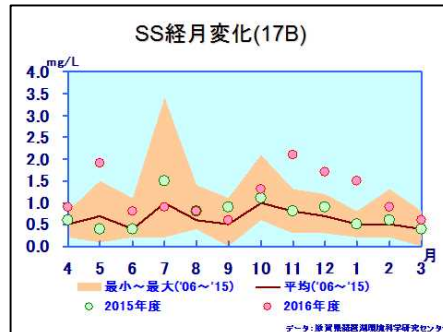
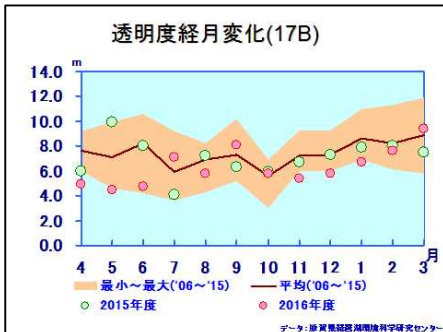
○今津沖中央 (17B) 調査結果

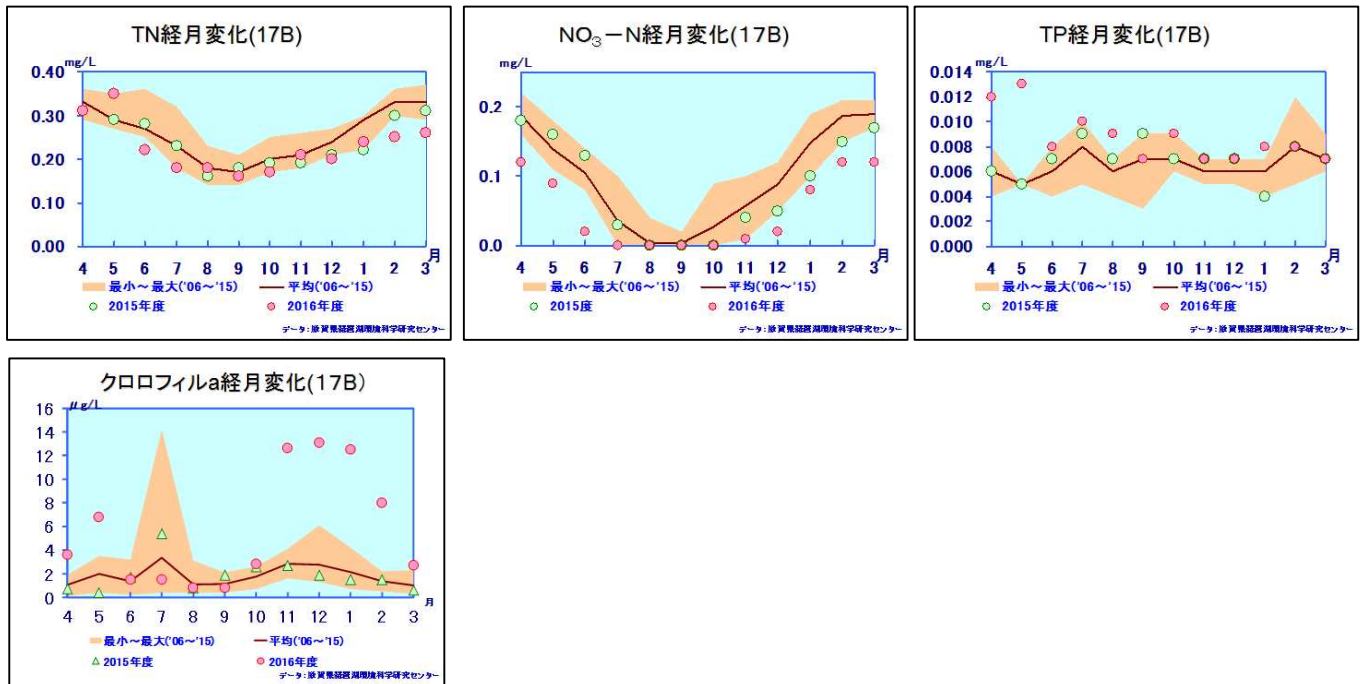
透明度については、1 月は過年度(過去 10 年間)最低値よりも低くなりました。その後、上昇傾向を示し 2、3 月では過年度平均値並みの値となりました。透明度に関連する項目である浮遊物質量(SS)は、1 月に過年度最高値よりも高くなりましたが、その後減少傾向を示し 3 月には過年度平均値並みの値となりました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)は、1 月は過年度最高値と同値(2.4 mg/L)で 2、3 月はともに過年度平均値並みの値でした。

全窒素(TN)は、1 月は過年度最低値並みの値でしたが、2、3 月はともに過年度最低値よりも低くなりました。全窒素の形態の一つである硝酸態窒素($\text{NO}_3\text{-N}$)は 1~3 月のいずれも過年度最低値よりも低い値となりました。全窒素濃度の低下は、硝酸態窒素の濃度の低下によるものと考えられます。また、全りん(TP)については、1 月は過年度最高値よりも高い値となりましたが、2、3 月はともに過年度平均値同値となりました。

クロロフィルaは第 3 四半期から特異的に上昇していましたが、第 4 四半期のうち 1、2 月も過年度最高値を大きく上回る特異的な値でした。しかし、3 月には大きく濃度が低下し過年度最高値付近まで低下しました。クロロフィルaの秋~冬季にかけての上昇は、大型緑藻の植物プランクトン(ミクラステリアス ハーディ)が大増殖していたことによるものと考えられます。



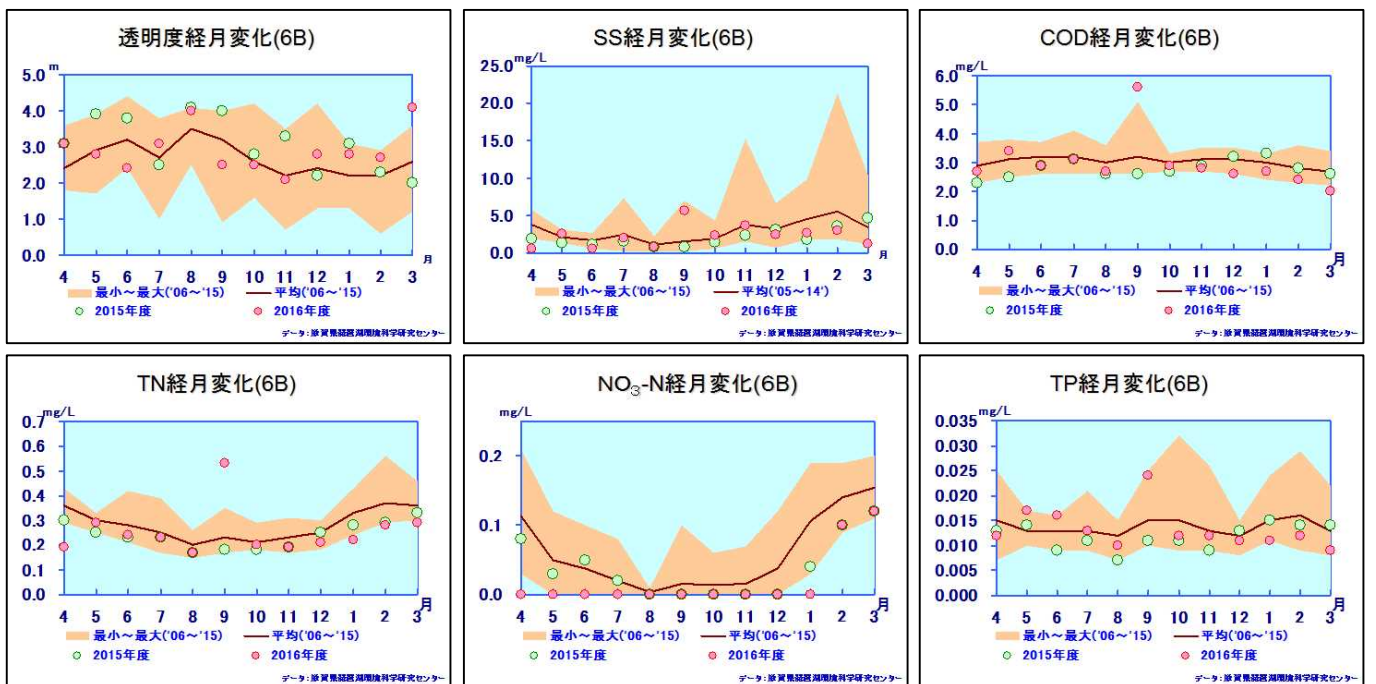


○唐崎沖中央(6B)調査結果

透明度については、1、2月はともに過年度最高値並みの値となり、3月には過年度最高値より高い値(全透)となりました。SSについては、1、2月は過年度平均値並みの値でありましたが、3月には過年度最低値と同値となりました。

CODについては、1、2月は過年度平均値並みの値でしたが、3月には過年度最低値より低い値(2.0 mg/L)となりました。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、1~3月のいずれも過年度最低値より低い値となりました。硝酸態窒素(NO₃-N)については、1月は引き続き報告下限値(0.01 mg/L)未満であり枯渇した状態でしたが、2、3月は過年度最低値並みの値まで上昇しました。また、全りん(TP)は、1月は過年度最低値と同値でしたが、2、3月は、ほぼ過年度平均値並みの値となりました。



《問い合わせ先》 〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター環境監視部門 公共用水域係

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: de51400@pref.shiga.lg.jp